地域医療の橋わたし

WE LOVE ちいき

January 2021
地域医療支援学レター vol. 34

CONTENTS

- 活動報告
- セミナー報告
  リレートーク第34回
- 「地域」を考える
  島根県出雲保健所長　中本 稔 先生

島根大学医学部 地域医療支援学講座

ACTIVITY REPORT

活動報告

令和2年9月25日(金)18:00～20:00

令和2年度島根大学医学部地域枠等入学生全学年会(Web開催)

【場　所】みらい棟2階共通カンファレンスⅠ　【参加者】27名(学生18名)

Web開催となった全学年会は、6年生の実行委員長、佐野教授の挨拶から始まった。

最初に、しまね地域医療支援センターの河原局長より学生達が卒後安心して臨床研修・専門研修に臨めるように、オールしまね体制でのキャリア支援についてお話し頂いた。

続いて自己紹介後グループになり、6年生から出題された「島根県ここはどこクイズ3題」と「症例クイズ」にグループ対抗で解答し楽しんだ。

Take Home Messageは①島根は良いところ沢山!色々見て回ろう!②情報を集める力が大事!友人を作ろう!③地域医療をやる上で、医学だけでなく色んな知識が必要!学生のうちから興味を持って勉強しよう!④困ったら支援学講座へ!が送られた。

繋がる事の大切さを学生から教えられたホットな時間だった。

令和2年10月17日(土)13:00～17:00

地域医療支援学講座10周年記念事業　島根地域医療フォーラム(Web開催)

【場　所】出雲ロイヤルホテル 末広の間　【参加者】会場22名

地域医療支援学講座は、平成22年に島根県の寄附講座として開設され、令和2年春に10年の佳節を迎えた。記念事業として、「今、地域医療を語る」と題し島根地域医療フォーラムを開催した。

第1部は医学部長の鬼形先生を座長に、教授の佐野千晶が「地域医療へかける思い」の演題で基調講演を行った。特別講演では、秋田大学大学院医学系研究科医学教育学講座教授 長谷川仁志先生にオンラインで「日本の国情・2 次医療圏の実情解析から展開した卒前教育改革の 12 年　―ポスト新型コロナ感染症時代の地域医療充実のために―」の演題でご講演を頂いた。

第2部のパネルディスカッションでは教授佐野千晶が座長を務め、「今、地域医療を語る」をテーマに、行政の立場から島根県健康福祉部医療統括監の谷口栄作先生、地域医療の立場から益田赤十字病院院長の木谷光博先生、住民の立場からまちづくり工房うんなん理事長の矢壁敏宏様、医学生の立場から4年医学科学生に、それぞれの立場からご発表頂いた。

地域医療支援学講座が次の10年に向けて、発展していくべく多くの示唆を頂いた。今後、島根の地域医療がより一層前進するために、県内医療機関・自治体等との相互理解を促進し、講座としての使命を果たせるよう、新たな歩みを着実に進めていきたい。

令和2年11月16日(月)18:00～19:30

令和2年度ワークライフバランスセミナー(Web開催)

【講　師】株式会社Woman's代表取締役　宮﨑　結花先生
【場　所】みらい棟4階ギャラクシー
【参加者】32名

人生100年時代といわれる今、人生の道筋を学習・仕事・余暇の3ステージに分けて考えていた時代は終わった。新しい生き方としてその3つを同時に考えるマルチステージという時代に変わり、お金という有形資産から、スキルや健康・友人、自己変革する力等の無形資産に価値を置く時代になったと話された。

また、ワークとライフのシナジー効果についてお話し頂き、実際にマルチステージチェックシートを用い自己を振り返り、さらには人生をより豊かにする為に自己の役割からそのバランスを描くワーク活動を行った。

参加者のアンケートには、「ワークに傾いているのでライフを充実させたい」「新しい生き方について考える時間となった」等の回答があった。

令和2年12月15日(火)17:00～18:00

えんネット交流会(Web開催)

【場　所】みらい棟2階共通カンファレンスⅠ
【参加者】女性医師7名、学生2名

今年度初めての、えんネット交流会をオンライン(ハイブリッド)で開催した。イマキクというオンラインアンケートを使用し、医師になった理由や、女性医師としての立場や環境について、また将来のプランについて活発に話し合うことができた。

島根県での子育てのメリット・デメリットについては、高学年の子供を持つ母親から貴重な意見が聞けた。また、仕事と家庭を両立していく上での外部サービスの利用法も聞け、大いに参考になった。

社会情勢からは女性医師の管理職の現状や女子学生の入試問題について提起し話し合った。学生からも参考になり、楽しかったとの感想が聞け、盛況な会となった。

今後も定期的に交流を持ちたいと考えている。

セミナー報告

SEMINAR REPORT

地域医療Webinar

働いてみて今感じる「地域医療」

【実施日】令和2年11月20日(金) 18:00～19:00
【講　師】沖縄県立宮古病院 坂口 公太 先生
　　隠岐広域連合立隠岐病院 小川 将也 先生
【参加者】33名

概　要

宮古島から坂口先生、隠岐の島から小川先生がタッグを組み「働いてみて、今感じる地域医療」をお話し頂いた。そこに一貫して、熱く伝えられたのは「やりがい」だった。

坂口先生は、いつもアクティブラーナーとしての学びを伝えられる。新任地での現況をお話し頂き、家庭医療を学ばれている先生は、「若い人にチャレンジしてほしい」とメッセージを送られた。

小川先生は多くの先生方との出会いがあり、プロフェッショナリズムを学び、個人のキャリア形成に繋がる事を、「Planned Happenstance Theory」等を用いて話された。また、自己の成長を確認する2つの事例を紹介された。

学生達は、時に無茶振りされるトークも楽しみながら同世代の身近な先輩に敬意を持って答えているのが印象的だった。

「ここまでできる!在宅医療と地域連携の現状とこれから ～京都編～ 島根の本気をみせてくれ!」

【実施日】令和2年11月11日(金)18:00～19:00
【講　師】よしき往診クリニック(京都)
　　院長 守上 佳樹 先生
【参加者】29名

概　要

今回のWebinarは、多職種連携サークルSiPSから守上先生をご紹介頂き共催で開催した。

お話は全編守上先生の情熱と活力に溢れ、「在宅医療・地域連携はここまでできるんだ」とタイトルに呼応したくなるような実践だった。先生は、診療の基本方針に「医療機関と患者、地域を結び付け、よりよい社会を作ることへの挑戦を目標とする」を掲げられており、その挑戦の過程をお聞かせ頂いた。365日24時間の安心を患者さんに提供する為の体制構築には、院内のみならず地域の歯科医師、薬剤師等との多職種連携や病院・診療所等多機関との密な連携がとられ、信頼できるチーム作りが行われていた。次世代を見据えた挑戦は、先生の人間的な魅力や牽引力でall京都体制がそこに見える圧巻の内容であった。

Career Webinar

【実施日】令和2年10月19日(月)12:15～12:45
【講　師】島根大学医学部総合医療学講座
　　教授 牧石 徹也 先生
【参加者】18名

概　要

タイトルは「Fire,ready,aim!まずは手を挙げよう」で、セミナーでは初と思われる英語でのプレゼンであった。

先生のご経験から、キャリア形成に必要な8つのヒントをお話し頂いた。

1. Contemplate what you want to achieve in your career.
2. Find your mountain to climb！　3. Always keep an eye open for relevant information!　4. Find your role model.　5. At each stage,do your best and reflect on yourself.　6. Get a chance!
7. Fire, ready, aim!　8. Feel free to change your goals.

中でも、7番「まず手を挙げる」は、先生の為せば成るの精神・やらなくて後悔したくないというポリシーにF.Dルーズベルトの名言からその意をより理解した。そして、どこでもベストを尽くしていれば誰かが見ていて道が開けるという言葉が印象に残った。

メッセージは、キャリア形成のヒントと同時に学生達が成長過程に考え続ける問いを与えて頂いたようにも感じた。

【実施日】令和2年11月10日(火)12:15～12:45
【講　師】島根大学医学部附属病院
　　病院医学教育センター長
　　准教授 長尾 大志 先生
【参加者】18名

概　要

インパクトある写真から始まったお話は、心に響くワードに溢れ、且つこれ迄考えるに至らなかったアイドルキャリア考に笑いと感嘆の声が漏れ聞こえた。

キャリアとは、持てる資産を財産に引き換えることと定義された。基本医師の世界は頑張れば頑張った分、得られるものがあり、それが「経験」であると話された。当直時の急患を例に、医師としての経験が持つ意味を伝えられた。初期研修での差は場所ではなく、その人の心の持ちようで差がつく。失敗は怖くて恥ずかしいことではあるが、「アウトプットし」「感情とセットで記憶する」ことは、最も効率の良い学習法であると話され、経験から学ぶ力も育つのだと感じた。

Take home messageは、逆三角形Bodyのインパクト写真を背景に、今の体力を人生の資産にと締め括られた。

【実施日】令和2年12月7日(月)12:15～12:45
【講　師】島根大学附属病院周産期母子医療センター
　　小児科学講座
　　助教 吾郷 真子 先生
【参加者】10名

概　要

「小児科Drの仕事-島根大学の場合-」というタイトルでお話し頂いた。先生は本学卒業後小児科に入局されている。小児科医の仕事は、私たちがイメージするような風邪や胃腸炎などを診察する一般小児科を軸とし、健診や予防接種等の保健業務がある。市中病院では一般小児科の診察をするが、大学病院では専門分野の診察を主としている。

先生は新生児医療が専門である。大学病院は専門分野の医師が同一施設内におり連携がとりやすく、すぐに相談できるのは良い環境だと話された。

また、来年4月に新しくなるNICUの可愛らしい壁紙のデザイン案を見せて頂いた。新生児医療は体力もいるがon-offが割とはっきりしており、女性医師でも働きやすい診療科であると話された。

第34回 リレートーク

TITLE | 「地域」を考える

島根県出雲保健所

所長
中本 稔 先生

地域医療では過疎地域やへき地が思い起こされますが、公衆衛生に関わっていると都市も田舎も関係ない（という私は広島市から島根県に転職した）。単に「人（びと）が生活するところ」とすれば、地域医療は「人（びと）の生活を支援する医療」と定義できる。社会的処方という言葉も聞かれますが、公衆衛生では労働衛生や農村医学など昔？から社会的処方をしている(と思っています)。都会の貧困から生じる疾病についても同様です。色々な「地域」があっていい。

昨夏、ある先輩から「君は何を目標に保健所長をしているのか」と問われました。COVID-19対応も大変だったことから、「医師、特に開業医の先生方の地域愛着を高めること」と答えていました。このまちが大好きでこのまちに暮らす人（びと）を支えるのが行政なら、このまちに開業する先生方を支援するのも保健所の役割と考えています。

地域包括ケアでは高齢者の「このまちで最期まで暮らしたい」という地域愛着を高めることを目標にしています。子どもの人格形成時にまちの人（びと）から褒めてもらうよい体験があれば、将来にわたって「いいまちだ」と思ってもらえる。そんなまちづくりを進めたいと思うのですが、毎日、悩んでいます。

島根県出雲保健所
〒693-0021 島根県出雲市塩冶町223-1
Tel：0853-21-1190

第13回日本保健医療福祉連携教育学会学術集会オンライン開催 島根大学医学部発 多職種連携サークルSiPS「３演題 理事長賞受賞！！！」

Shimane Interprofessional collaborations by Students（以下、SiPS）は、島根県の学生を主体とする島根大学医学部発の多職種連携サークルです。学生同士、社会人と学生を繋ぎ、様々なバックグラウンドを持つ方で構成されてます。

今回、SiPSの活動を学術集会で報告させて頂きました。第1報は、今年2月に行われたIPE（多職種連携教育）のワークショップを皮切りに様々なプロジェクトが立ち上がったこと。第2報はコロナ禍の緊急事態宣言下においてオンライン上で島根県内外の学生や社会人と多職種連携ワークショップを先駆的に行ったこと、そして第3報はプロジェクトの一つで、島根県で活躍する介護系団体の方々との連携です。今後も学生間にとどまらず社会人をも含めた活動をSiPSが触媒となり、ヒューマンリアクションを起こしていける活動を続けていければと思います。

交流会が開催されました 雲南市交流会

令和2年10月23日（金）
参加者22名（学生11名）

今後の予定

Career Webinar

令和３年１月25日（月）12：15～12：45

講師：名越 究 先生
環境保健医学講座 教授

令和3年２月15日（月）12：15～12：45

講師：石原 弘基 先生
リハビリテーション医学講座 医科医員

地域医療Webinar

令和3年1月22日（金）18：00～19：00

講師：山﨑 啓一 先生
公立邑智病院 内科（総合診療科）医長

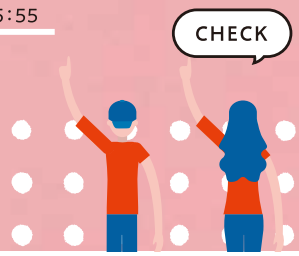
令和3年2月22日（月）18：00～19：00

講師：大友 康弘 先生
東京医科歯科大学 大学院医歯学総合研究科
医歯学系専攻 全人的医療開発学講座
救急災害医学 教授

令和2年度島根県医師事務作業補助者研修会 オンライン開催（共催：島根県健康福祉部医療政策課）

令和3年1月23日（土）13：30～15：55

講師：村田 陽子 先生
松江赤十字病院 副院長



編集後記

レターをお読み頂きありがとうございます。皆様はどのようなお正月をお迎えになられたでしょうか。会えない状況で年賀状一枚一枚に紡がれた言葉には、いつもと違う言葉の響きを感じ受け止められた方も多かったのではないでしょうか。コロナを経験した今こそ、人と人との繋がりやそれを支える力が必要なように思います。干支の丑の字には、人々との間を「結ぶ」存在という意味も込められているそうです。また、丑は学問の神様菅原道真と深い繋がりを持ち、芽吹きの兆しを表すと言われています。2月6･7日は医師国家試験、6年間頑張った学生達に3月芽吹く季節と共に吉報が届けられることを願いたいと思います。

島根大学医学部
地域医療支援学講座
ホームページはこちらから ➡

発行/島根大学医学部地域医療支援学講座　〒693-8501 島根県出雲市塩冶町89-1　[TEL]0853-20-2558　[FAX]0853-20-2563　[E-mail]career@med.shimane-u.ac.jp